

おてら

先祖への供養は

私への供養

春彼岸法要会

三月十八日～二十四日

二十一日（木・祝）

午前十一時より

彼岸中日法要

護持会総会

正午 おとき

おときも椅子席になっています

ご本尊様にお参りしてから

お墓参りをしましょう

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日
午後一時より

慚愧

位職 蒲原 靈英

裏面の御正忌報恩講（親鸞聖人の御祥月御命日法要）におけるご門主のご親教（法話）の中に、「慚愧」という言葉が二回出てきます。謝罪会見等で、「慚愧に堪えない」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、あまり馴染みの無い言葉だと思えます。元々はサンスクリット語を漢訳した仏教の言葉で、仏教では「ごんぎ」ではなく「ごんぎ」と読みます。「慚」も「愧」も恥じるという意味ですが、親鸞聖人の「著書『教行信証』」に、『涅槃経』の一節を引用して、慚愧について述べている部分があります。「人には大切な二つの道があります。それは生きとし生けるすべてのものを命を大切にしていくなので道なのです。一つは慚であり、もう一つは愧です。慚とは、恥ずかしいことだから自分から罪を作らないこと。愧とは、他人に「恥ずかしいことだから止めなさい」と教えること。慚とは、自分で「恥ずかしい」と気が付くこと。愧とは、「恥ずかしいことをして申し訳ありません」と他人に謝ること。慚とは、人として恥ずること。愧とは、天に恥ずること。」

この慚と愧をあわせて慚愧といえます。慚愧の無い人は人とは呼べず、畜生と呼ぶのです。」

今まさに何処ぞの国に聞かせてあげたいものですが、かく言う私は大丈夫なのかというと、この私もまた、人と呼べるには遠い存在なのかもしれません。親鸞聖人は、私たちの本来の姿を「無慚無愧」と表されました。私たちは貪り、怒り、偽りといった自己中心的な想いから湧き出る言動ばかりで、それを恥ずかしいことであると気付くことすらできません。ご聖人は、その姿を厳しく見極められています。人間は、人間として生まれながらとって、人間らしく生きていけるわけではありません。正しい教えに遇うことによって、自らの愚かさや恥ずかしさを知り、慚愧の心をもつて生きていくことで、初めて人間らしく生きていくことができるのです。

彼岸はさとりの世界。生きながらにしてさとりを開くことなど到底できない私たちですが、まずは人間らしい生き方をしたいものです。合掌

親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年についての消息

門主 大谷 光淳

来る二〇二三年には宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年、また、その翌年には立教開宗八百年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安三年(一一七三)にご誕生となり、御年九歳で出家得度され、比叡山で修行を重ねられました。二十九歳の折、山を下りて法然上人の御弟子となられ、阿弥陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流罪になられ、赦免にとりかかられました。他力念仏のみ教えを人々に伝えられるとともに、『教行信証』の執筆の意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご本典の記述によって、その成立を親鸞聖人五十二歳の時、すなわち元仁元年(一一二四)とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

仏教は今から約二千五百年前、釈尊が縁起や諸行無常・諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まります。翻って私たちは、この執われのないおさとりの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人と争ったりしています。釈尊は、このような私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願いが、南無阿弥陀仏のお念仏となってはたらき続けてくださっていることを明らかにされたのです。

ありのままの真実に基づく阿弥陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、自己中心的な考え方しできない煩惱具足の私たちも決して見捨てられることはありません。その広大な慈悲を思うとき、親鸞聖人が「恥づべし傷むべし」とおっしゃったように、阿弥陀如来のお心とあまりにもかけ離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。しかし、この慚愧の思いは、阿弥陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。

それは、阿弥陀如来の願いを一人でも多くの人に伝え、他人の喜び悲しみを自らの喜び悲しみとするような如来のお心になう生き方であり、また、世の安穩、仏法弘通を願われた親鸞聖人のお心に沿う生活です。み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、宗門総合振興計画の取り組みを進めながら、来るべき親鸞聖人ご誕生八百五十年ならびに立教開宗八百年の慶讃法要をともお迎えいたしましょう。

春の日帰りバスツアー

4月10日(水)

月岡温泉 華鳳

会費 ¥ 7,000 タオル付



浄光寺

10:00発/16:00着



ご夫婦、ご兄弟姉妹、お友達等
お誘い合わせの上
ふるってご参加ください!

わくわくファームでお土産もどうぞ

申込み 025-229-0629 お寺へ